

北海之光

8月号 北海道教区報

わたしがここにおります
 わたしを遣わしてください
 イザヤ書6章8節

発行所 北海の光社
 001-0015 札幌市北区北15条西5丁目1-12
 日本聖公会北海道教区事務所
 電話 011-717-8181
 F A X 011-736-8377
 E-mail:hikari@nssk-hokkaido.jp
 http://www.nssk-hokkaido.jp
 発行人 植松 誠

主よ、憐れみをお与えください

小樽聖公会牧師

司祭 クリストファー 永谷 亮

公会の司祭に任せられてからちょうど一年が経ちました。今号は、わたしが司祭として初めて筆を取る巻頭言でもありますので、司祭接手から一年を経た現在のことを書かせていただくと思いました。

司祭接手式のこと、今でもよく覚えています。接手式だけではなく、その日の暑さについても忘れることはできません。司祭接手式が行われた七月一日は札幌にしては猛暑ともいえる日で、記録によると最高気温は三三度でした。式が行われた札幌キリスト教会の礼拝堂は前日の暑さを残したままで、式服を着ての接手式はまさに真夏にコートを着ているようで汗を拭いてもまったく追いつきません。接手式が進むと、さらに身に付ける式服が増え、主教様の前にひざまずいたわたしの額

からは絶え間なく汗がしたたり落ち、その汗は目にも入り、涙も出る始末でした。そして、主教さまをはじめ先輩司祭たちもわたしの手をおくと、その重さに体がつぶれる思いでした。司祭接手の恵みに与った後、わたしは教区報に「接手式では暑さで汗をたくさんかきましたが、これからは司祭としての働きに汗をかいていきたい」と記しました。はたして、公会の司祭とされてから一年、今のわたしはその時の思いと覚悟に胸を張ることができるといえば、もちろんそうではなく、まだまだ頑張らなければいけませんし、どれだけ頑張ったらいけないものでもないことに、聖職に召された者としての終わりのない働き、またそれゆえの大きな恵みと祝福に、畏れと感謝を抱かれます。

聖職の務めとは「福音を告げ知らせる」ことに他なりません。これは聖職に限らずキリスト者すべてに言えることでもあります。特に司祭は主教の代理として、イエス・キリストが命じられた聖餐(サクラメント)を行い、神さまの祝福と恵みが今ここに、わたしたち一人ひとりに確かにあり、キリストがともにいてくださることを確信し、毎日の生活がキリストへのおだやかな信頼のうちにいきいきと送ることができるようにとの尊い務めに召されています。

そこでわたし自身は、わたしが遣わされているところでその働きを同労の聖職団とともに、それぞれに神さまが与えてくださっている賜物を用いて、助け合い、祈り合いながら主のご用に与らせていただいております。

わたしは、教会では小樽聖公会と帯広聖公会に、教区の働きでは青年会と宣教活動推進部にも遣わされています。自分自身の弱さや足りなさを実感することが多い中、

このようなわたしを神さまが召し出してくださっていること、わたしの力ではなく、主がわたしを通してみ業をなさってくださいすることに信頼しきるしかありません。「聖霊によらなければ、誰も『イエスは主である』とは言えない」(1コリ12:3)のと同様聖職もまた聖霊の導きがなければその務めを果たしていくことはできないからです。ですからわたしは、ひざまずいて、「主よ、憐れみをお与えください」と祈るほかありません。そしてみ言葉に聞き、聖餐に与り、みなさんと、またすでに世を去った人びとの交わりの中にあり、主の慈しみと喜びに満たされます。

また同時に、司祭の働きとは、キリストの十字架に与ることであることをいつも覚えて続けながらこの務めを果たしていきたいと願っています。

主イエス・キリストの恵み、神の愛、聖霊の交わりが、わたしたちとともにありますように。



—心の窓をひらいて—
福音と私(二一九)



— 今、なぜ、私はキリスト者として生きるのか —

旭川聖マルコ教会信徒

テトス 久末 隼 一



好きな聖句

それから、トマスに言われた。「あなたの指をここに当てて、わたしの手を見なさい。また、あなたの手を伸ばし、わたしのわき腹に入れなさい。信じない者ではなく、信じる者になりなさい。」

ヨハネによる福音書

第二〇章二七節

過去に何回か私自身の信仰告白を述べていたつもりだったこと。更に、拙文を今更さらけ出す恥をかきたくないとの思いからそうとしていたのですが司祭にばれ、強引に勧められて筆を取りました。

・ 入信のきっかけ

家が貧乏だったせいで、大
学は公立、下宿は、親戚と決
まっていたものですから一年

半は、親戚に厄介になりました
たが、後に、札幌聖ミカエル
教会付属ミカエル寮生募集の
張り紙を見て、面接に臨み、
五〇%の合格率を見事に突破
して入寮したのがきっかけで
した。宗教への関心は、親が
不熱心な信徒だった事もあ
り、キリスト教への抵抗はあ
りませんでした。寮生活を通
して、入寮の条件だった、毎
朝七時からの早禱式参加、出
来ただけ参加の教会主日礼
拝・週一回開催の聖書研究会、
年に何回かの信徒宅への食事
のお呼ばれ、寮生同志の日頃
のコミュニケーションは、私
にとって、心地よく楽しいも
のでした。そして、多分、教
会委員会等の目論見だったと
思われる、空白の在寮生大学
四年目の寮長候補をつくる期

・ 仕事と教会

待に応え、一九六七年七月に
洗礼を授かることが出来まし
た。また、大学入学時の憧れ
だった男声合唱団への入団も
教会音楽に触れる機会とな
り、信仰生活を後押しする事
になったと、思い返していま
す。

就職は、工学部機械科出身
の地元志向でしたので、旭川
市に工場のあった当時の国策
パルプ(株)に入社しました。入
社式は東京本社で行われ、十
数名の学卒新人が重役の前に
並び挨拶をしましたが、クリ
スチャンになりましたのでのせい
か、特に聞かれもしないの
に、キリスト者としての身分
を明かしました。並居る重役
の面々は、是も非もなく、「な
んだこいつは」といった、
しらけた顔をしていました
が、その後の査定に特に影響
はなかったと思っています。

旭川工場は、紙とパルプの
製造が主力で約一〇年間、工
務部設計課に配属されていま
した。設計課といっても紙を
設計するわけではなく、紙の
生産に必要な設備の維持管

理、新設工事の担当を受け持
ち、機械設備の選択購入、配
置、工事の監督、メンテナンス
等が主な業務でした。大き
な建設工事担当になると業務
が集中する数ヶ月は、残業の
連続で真夜中の帰宅も続きま
した。このような激務の中で
も信仰生活を絶やさないうで済
んだのは、日曜学校の奉仕を
していたからだと思っていま
す。毎主日九時からの日曜学
校は、欠かすことが出来ない
賜物でした。

・ あと書き

合併を繰り返して大きくなり
ました。その後、子会社の国
策機工(株)に向向して、最後は、
旭川聖マルコ教会に引き取ら
れています。

四国時代には、妻が本州、
長女が北海道、長男が九州と
離れていた時期も有りました
が、今は、全員北海道です。

「福音と私」の寄稿に当たり、
教籍簿を調べ、学生履歴を調
べ、職歴・教会暦の一覧表を
つくりました。ふと気付いた
のです。「おっと！これはエン
ディングノートではないか。」
最近、聖書を読みながら、何
故か、「天国」のキーワード
が気になります。教会内の身
近な先輩に先立たれます。

大切な教区のお仕事も経験
させていただいております。
社会人としての経験から、計
画し、実行し、チェックし反
省して次の計画にステップ
アップする。そんな生き方に
毎日の祈りを加えて調和させ
る。現実との食い違いに悩む。
残りのエンディングノートに
何を書き込むか？神様のご恩
寵に従うのみです。

会社は、国策パルプから山
陽国策パルプ、日本製紙へと

常置委員会報告

第九回 七月二五日

《協議事項》

- 一、阿部聖職候補生・上平聖職候補生執事志願の件
- ・両聖職候補生に対する、法憲法規の定める推薦書を受理

主教室より

「旅には杖一本のほか何も持たず・・・」(マルコ八・八)

七月初旬、テキサス州オースティン市で開かれた米国聖公会総会に参加しました。オースティンは、昔私が神学校で学び、息子が生まれた懐かしいところでした。今から三六年前、私と妻は生後八ヶ月の息子をかかえて、日本に帰国する準備で大忙しでした。そのよ...

- した。今後、試験など次のプロセスに入ることにした。
- 二、来年度の教区会計 予算作成の件
- ・会計担当者会議に向けて順次作業を進めることを確認した。
- 三、横浜教区主教按手式への

それから帰国までの数週間、オースティンで私は日本に持って帰るものを荷造りし、売れるものはすべて売り払いました。日本に帰れば、大阪教区での教会勤務が決まっていました。何もないとこから始めなくてはならないのだから、少しでも多くの資金を作っておく必要があると言つて、家内が眉をひそめる中、ひたすらガレージセールに励みまし

た。七年前にわたる米国生活で、主はこんなに祝福してくださったと喜びながら、私たち三人は帰国の途に就きました。サンフランシスコ空港で、搭乗手続きをする際、「パスポートを出してくださう」という係員に、はいと答えて下を見ると、

- 参列者の件
- ・教区代表として大町司祭(常置委員長)が参列することを承認した。
- 四、植松主教海外出張の件
- ・香港聖公会成立二〇周年記念礼拝(一〇月七日〜九日)への出張を承認した。

- 五、稚内、厚岸、帯広双葉幼稚園の件
- ・現況報告を聞き、今後について多方面から協議した。継続審議。
- 六、「グレースの会」への協力に関する件
- ・日本キリスト教海外医療協力会より助産師としてタンザニアに派遣される予定の雨宮春子さん(札幌聖ミカエル教会)の支援のために設立された「グレースの会」の働きを、教区としても重要と位置づけ、積極的に協力することとした。
- 七、西日本豪雨災害に関する件
- ・情報を収集し、適宜各教会に対して配信することとした。

堅信式受領

おめでとう

- 札幌キリスト教会
- ナオミ 山下日登美
- アグネス 逸見 純子
- ニコデモ 布施 正孝

七月二二日

十 教区逝去教役者 記念聖餐式

九月二日(水)

午前一〇時三〇分

於 主教座聖堂

次の方々を覚えて祈ります。

- 司祭 木末 登 一九六七年九月四日
- 司祭 本間 弥門 一九三九年九月八日
- 司祭 岡村 龍夫 一九八〇年九月一〇日
- 司祭 須貝 隆 一九九九年九月一三日
- 伝道師 門崎 まさゑ 一九七九年九月一五日
- 伝道師 A・M・ヒュース 一九五八年九月一七日
- 伝道師 E・E・ヒュース 一九三〇年九月一八日
- 司祭 柴田 新太郎 一九三四年九月二〇日



日本聖公会第六四(定期)総会 報告

総会代議員 司祭 ペテロ 大町 信也

六月五日～七日、日本聖公会第六四(定期)総会が、東京教区牛込聖公会聖バルナバ教会を会場に開催されました。同総会は、二年に一度、全教区の主教・各教区四名の代議員が参集して開催されますが、北海道教区からは植松主教の他、大町司祭・永谷司祭・津田武典さん、尾関敏明さんが出席しました。

【議長挨拶】

開会にあたり首座主教として議長を務める植松主教より、議長挨拶がありました。その中で植松主教は、二つの点を強調されました。第一に、二〇一二年に開催された宣教協議会において「日本聖公会(宣教と牧会の十年)提言」という形で提起された宣教課題について、意識的に取り組む、次回二〇二二年に控える宣教協議会に実りを持ち寄るために残り四年間を過ごすよう訴えられました。第二に、二〇一一年の東日本大震

災の経験を経て、日本聖公会の宣教の原点は「社会で小さくされて人々、周辺化されている人々と共に歩む事が重要である事」を確認してきたことを指摘。東日本大震災から七年を経て東京電力福島第一原子力発電所事故による多くの被災者が、苦難の中に置かれていた事に触れ、二〇一二年の総会が採択した「原発のない世界を求めて」原子力発電を再確認する事の重要性を指摘されました。そして「原発のない世界を求める国際協議会」が日本聖公会の主体性で行われる事の意義について述べられました。

【人権に関する学び】

総会では、議案審議の他、研修の機会が設けられていますが、今総会でも「人権問題に関する学び」の時間が設けられました。今回は奥田均氏(近畿大学教授、部落解放・人権研究所代表理事)より、

「部落差別解消法の内容とその意義」について、解りやすく、かつチャレンジングなお話をお聴きしました。

【報告と議事】

前総会期である二年間の諸報告を受け、決算・予算を含む計三六の議案が審議・決議されました。いずれも重要な決議ですが、特筆すべき幾つかを以下に紹介します。改正祈禱書試案の試用を求め

二年前より祈禱書改正委員会が設置され精力的にその作業が進められています。今後、順次公表されていく式文を、主教会の認可のもと各教会で用いる事ができるようになります。それらを、用いる事に各教会が参与する事で、祈禱書改定のプロセスが実り多いものとなるよう期待されます。

「女性司祭実現に伴うガイドライン」改定の件

日本聖公会が女性の司祭按手を可能としたのは、一九九八年総会の事で、「女性司祭実現に伴うガイドライン」も併せて決議されました。

背景には「女性司祭」に反対する人々への配慮があった訳ですが、今日に至る二〇年の間、按手された教区とは異なる教区での聖餐式の執行など

において、女性司祭が十全にその司祭職を果たす事が妨げられているのではないかと指摘されるケース等が少なからずありました。今回のガイドラインでは「日本聖公会は、日本聖公会祈禱書によって聖職按手を受領した者の聖職位は、有効性を保持していることを認識する」という文言が示すように、日本聖公会において叙任された聖職は、性別によって聖職位の有効性が否定されず、いかなる排除もなされてはならない事が明確にされました。

「原発のない世界を求める国際協議会」開催の件

主教挨拶の所でその背景と意義について触れています。具体的には、二〇一九年五月二八日～三一日の日程で、同協議会が仙台において開かれます。教区からの代表者や関係する各委員会に加え、世界各国の聖公会からの

出席者を迎えて、原発のない世界の意義を確認し世界に向けて発信して行くこととなります。

【選挙】

首座主教選挙では、植松主教が再選され七期目の重責を担われる事となりました。首座主教の任期を三期六年に制限するという趣旨の「日本聖公会首座主教選挙規則」の改正に関する件、という議案が出されておりましたが、今総会での唯一の否決議案となりました。管区事務所総主事には、主教会の指名により矢萩新一司祭が再任されました。管区常議員の一人に大町司祭が選出されました。

【横浜教区主教選挙】

総会における諸議題の審議の終了後、横浜教区主教選挙が行われました。横浜教区における二回の選挙で当選者がえられなかったため、管区総会での選挙となったものです。第一回の投票で、イグナシオ 入江修司祭(横浜教区)が、当選されました。

道央分区 婦人の集い

二〇一八年七月二〇日(金)

於 札幌聖ミカエル教会

隔年で開催される「道央分区婦人の集い」は、今回、札幌聖ミカエル教会(以下、ミカエル教会と略記) 婦人会が企画準備、道央分区内六教会および深川聖三一教会からの参加者もあり、六八名の参加者を得て行われた。

ミカエル教会の礼拝堂は歳を重ねるごとに趣きを増す祈りの空間だ。歳月を経るに従って古びるのではなく、聖性を深めて行く。その聖堂において午前一〇時三〇分、オルガンの前奏が流れる中、集いは、植松誠主教司式による聖餐式ではじまった。

ミカエル教会牧師下澤昌司祭が説教。マルコ福音書六章七節以下から語られた。以下、主観的要約。

…主イエスは、一二使徒を二人ずつ組にして福音宣教に遣わす。弟子たちは、福音宣教者として、それにふさわしい器、技量を有する者というより、弱さ、脆さ、情けなさ

を持った者として遣わされたのではなからうか。それは、

私たちの姿でもある。その福音宣教の旅は、主イエスの職務遂行の旅というより、むしろ巡礼の旅に近い。「旅には何も持たずに…」主イエスの命令には、自分の安心の拠り所はモノによらないこと、

その旅において、すべてを備え満たしてくださる神との出会いの旅であることが示されている。教父オリゲネスは「この巡礼の道を歩くとき…その道こそが旅に必要な、すべてを与えてくれる…」と語っている。

弟子たちの行くところ、挫折と失敗もあったであろう。挫折と失敗、そのときこそ、二人の意味、真価が問われる。苦しみを共にし、支えあって生きる巡礼の旅なくして福音宣教の旅は成立しない。私たちにとって日常生活こそ信頼への巡礼の旅ではなからうか。その途上で、神と出

会い、必ず目的地に辿り着く。なぜなら、主イエスが、その歩むべき道となつてくださり、その終着地において、主イエスが私たちが暖かく迎えてくださるゆえに…。

聖餐式後、会場をミカエル幼稚園ホールへ移し、ミカエル教会婦人会の方々による心のこもった昼食をいただく。おいしい食事だ。その後、第二部の講演会へ。



講師はミカエル教会信徒グレース雨宮春子さん(以下、雨宮さんと記)。雨宮さんは日本キリスト教海外医療協力会の派遣ワーカー候補生として現在研修中であり、来年度春からタンザニア・タボラへの派遣が内定している。

雨宮さんは、助産師である。今回の講演において、ご自身のこれまでの歩んできた道、貴重な体験を話してくださいました。

雨宮さんは一九八〇年、紋別生まれ。父は雨宮大朝司祭であり、母は雨宮寿子さん。牧師の家庭に生まれ、六人きょうだいの末子として育つ。

小学三年の夏、北海道教区のサマーキャンプに最年少で参加。講師、在日大韓基督教会キム牧師から、バンングラデシユの貧困状況を聞き、貧困の中にある人々への関心を持つ。キム牧師に、「大人になつたら貧しい人たちに仕える仕事につきたい」との思いを告げると、「看護師、助産師の資格を取るように」と助言を受ける。それが、「志」を持つ契機になつたという。

お話は、大きな枠では、その「志」を与えてくれたキム牧師との約三〇年を経ての再会の物語。書き記したいことが、五つほどあるのだが、紙面の都合上、最も印象に残ったことを一つだけ記す。

それは助産師として「死をもてなす」ことの大切さを重い病で死を受容していた父上との対話から語ってくれたことである。助産師の仕事は、

出産に立ち会う祝福の仕事だけではない。流産、死産、…死に直面することも…。そのような魂に寄り添い、その死をもてなすことの大切さを、心に残る言葉で語られた。

下澤司祭の説教、雨宮さんの証には、一貫するものが流れていた。それは神のご計画と導き、ご配慮だ。その恵みを分かち合い、今後の雨宮さんの働きを憶え、祈り、支えるための第一歩となる集会であった。

(司祭池田亨報)

北海道教区礼拝研修会

日程 二〇一八年一月二日(金) ~ 四日(日)

会場 札幌キリスト教会

宿泊 クリスチャンセンター

講師 主教 植松 誠

テーマ 主の復活の日をともに祝う—聖餐式—

主催 教区礼拝委員会



▽平取聖公会

七月後半になって天候が回復し暑い日が続いています。

当教会では毎月第二日曜日礼拝後に教会委員会を開いています。報告事項は宣教、営繕、会計、婦人会、保育園、礼拝日程と続き、協議事項で終わります。七名の委員がいりますが、半数が集らなければ次週の礼拝出席を待ったり、持ち回りで進めています。年当初九名であった現受聖餐者が八名に減りました。ほぼ全員が委員として運営に当たっていることになりました。課題も多い神の宮の守り人に力が与えられますように。

▽有珠聖公会

七月七日、八日、道南分区合同礼拝に、大町司祭・片平

芳裕さん、笠井由紀子さんの

三名が参加。今金インマヌエル

教会の皆さんの心を込めた

準備に感動。大いに楽しみ・

学び・共に祈る機会を与えら

れて感謝。二二日、主日聖餐

式。ご近所の家族が出席くだ

さり、いつもの顔ぶれに子ど

もたちが加わり新鮮な気分

でした。八月五日、教区GFS

キャンプの二七名の皆さんを

迎えて礼拝が捧げられました

た。教会が建つ丘は、日々の

手入れの苦勞が実りアジサイ

の名所となっています。八月

二六日から三日間、大町司祭

は滞在司牧します。

▽紋別聖マリヤ教会

寒い紋別でしたがここ数日夏の暑さが続いております。

七月一日、第六三回運動会が

行われました。時折り雨の降

る中でしたが、園児たちの歓

声がこだましておりました。

二三日、二四日の二日間、苦

小牧市で施設職員研修会が行

われました。教会では二二日、

大阪より高橋ご夫妻が保養の

ために紋別に訪れておりま

す。二九日、ジェームス兄の

お兄さんご夫妻が来られ、皆

で歓迎いたしました。主の平

安が皆様にありますように。

▽留萌キリスト教会

記録的豪雨に襲われた三

日、一部地域に避難指示が発

令し、幌糠や幌新で川が氾

濫。中幌糠の小林さん宅は高

い場所で難を免れるも、水田

は土砂崩れや氾濫の爪痕が残

される。大雨は一転して高温

三三度と一〇日以上の日照り

となり、老夫婦の自家用野菜

の栽培は難航を極める。異常

気象がいかにも生活困難と直結

する深刻な問題であるか、身

を持って知る。

二二日宣教記念バザーは、

深川から一〇名が加わって無

事終了。規模を縮小し、楽し

く行えたように思います。

感謝。

▽帯広聖公会

七月三日に旭川より大友愛

美さんをお迎えし、教会と幼

稚園との共催で「共に生きる」

集い講演会を開催しました。

幼稚園は七月一八日に終業式

を終え、八月一七日の始業式

まで夏休みに入りました。

八日、一五日は松井司祭に

司祭による聖餐式。

逝去者の埋骨式、記念式が

行われ、九日尾関家。一五日

橋本家。二九日及川家。魂の

平安をお祈りいたします。

来る八月六日、九日、には

礼拝堂にて、広島、長崎での

原爆記念日を覚え点鐘礼拝を

予定致しております。

婦人会では、来る九月一六

日に、帯広聖公会礼拝堂、聖

公会幼稚園、双葉幼稚園、を

会場に道東分区婦人大会へ向

けて、準備が始まりました。

▽稚内聖公会

七月三〇日、七月の礼拝を

本原満栄さん、與賀田敏子さ

ん、広谷栄子さん、牧師の四

人でお捧げする。稚内聖公

会「観測史上」最も暑い礼拝

となったことはほぼ間違いな

し。六月の礼拝は、真っ先に

ストーブを焚いて、温度を最

大にしたっけ。礼拝後、御茶

をいただきながら稚内の教会

の将来について自由に話し合

う。今後もこのような話し合

いを続けていきたい。帰路「イ

エスの姉妹会」を訪ね、マド

レーヌさんの「稚内生活四〇

年」の思い出に聞き入った。

来月はいよいよ「合同礼拝

だ!

▽小樽聖公会

小樽聖公会では、毎年七月

第二主日を宣教開始記念日と

し、今年には宣教一三八年を迎

え、記念礼拝をお捧げいたし

ました。また、昨年から掲げ

ている「わたしたちの教会の

夢」である「感謝と喜びあふ

れ祈り合う教会・人びとが集

う地域に開かれた教会」を教

会・信徒がより実践できるよ

うにと、「祈りのしおり」「祈

りのこよみ」がこの七月に合

わせて作られ、配布されまし

た。「しおり」は日々・折々

の祈りに用いることができる

ように、「こよみ」はひと月

見開きで教会や地域の行事が

まとめられ、家族や知人・友

人の記念日を書き込むことが

できるようになっています。

▽釧路聖パウロ教会

釧路聖パウロ教会の玄関ド

アの修理が終わり、美しく塗

り替えられました。教会内、

各部屋のドアの建てつけも調

整していただき、冬の隙間風

対策ができました。山本兄に

感謝。

厚岸聖オーガスチン教会は、佐田兄ご一家が教会の掃除をしてくださいます。佐田兄ご一家のご尽力やご奉仕に感謝します。今後も釧路・厚岸両教会の共同作業に神のご加護がありますように。また、松井司祭様は、釧路・厚岸・帯広の教会のご奉仕のほか、頌栄保育園、聖公会幼稚園のチャプレンをしておられます。皆さんお祈りください。

▽旭川聖マルコ教会

七月第一主日はしようえいまつりバザーが開かれました。あいにくの雨でしたが主会場を屋内に移し、保護者や卒園児、ご近所の皆さんで大賑わいでした。特別イベントとして行った手品とバルーンアートは大好評でした。

二二日、マルコ食堂後「マルコ講座」「ヨハネによる福音書を学ぶ」が開講され、聖書を輪読、広谷司祭の解説に耳を傾けました。二九日は甲斐博邦司祭の司式と説教により聖餐式が行われました。七月上旬は雨が続き、下旬からは、一転して酷暑となり、礼

拝堂は扇風機がフル回転です。

▽札幌聖ミカエル教会

一三日、月一度のロザリオの祈り会、鈴木洋子さんのお話しを伺うとともに、世界のため、身近な人々のために祈り合う。二〇日、当教会を会場に道央分區婦人の集いを開催、六八名の出席。聖餐式後、JOCsからタンザニア派遣が内定している当教会信徒、雨宮春子さんからお話しを伺う。二二日、今年までタンザニアに医師として派遣されていた弓野綾さんの報告会。日本では当たり前の医療行為や出産が多くの困難を伴うことに改めて衝撃を持って受け止める。その後、雨宮さんを支えるグレースの会の設立総会を行い、祈りつつ支え、そしてこちらも恵みをいただくことを願います。

▽札幌キリスト教会

長雨から一転突然の猛暑となった七月でした。マリヤ桑山道子さんが一四日神様のもとに召され一六日通夜、一七日葬送式が行われました。二二日主教様をお迎えし

た創立一二六周年記念礼拝では、教会全体でアグネス逸見純子さん、ニコデモ布施正孝さん、ナオミ山下日登美さんの洗礼・堅信と大関哲史さんのサーバーデビューを祝福しました。そして午後は、主教様の講話をいただきました。

一五日・一六日は、当教会を会場に聖公会女性フォーラムが開催され、全国からの参加者による活発な意見交換が行われました。暑い日が続きますが皆様ご自愛下さい。

▽新札幌聖ニコラス教会

一五日、長沼町仲野農園で恒例の野外礼拝。荒天の中、四名が参集。植松主教司式、横山司祭補式、上平聖職候補生はギター。主教は福音書に

関連して往時の留学経験を話され、深く考えさせられた。礼拝後BQを共にし、深川聖三一の仲野夫妻やメノナイトのレイモンド夫妻の話を聴き、他教会の皆様と会話が弾んだ。

二九日は下澤司祭司式・説教と上平聖職候補生補式。礼拝後司祭の講話「いつまでも感謝をもって」があり、神の

恵みと希望を表わすための人生終期の聖奠的諸式の考え方と具体例を詳しく話され、悩める高齢者に大好評。大感謝。

▽新冠聖フランシス教会

七日、八日と今金インマヌエル教会の婦人たちが担当された「道南ブロック集会」が開催されました。当教会からの参加は叶いませんでしたが、内海司祭と平取の婦人たちが出席され、様子を伺いました。

当初天候不順が続いていた日高地方も、ここへきて暑い日ざしが戻ってきました。牧草刈りも「三番草」まで採れるようになりました。「牛屋さんはまだ二番ぐらいかな」とのことです。

次の礼拝は八月二二日―逝去者記念礼拝です。一五日には墓地礼拝の予定です。

▽室蘭聖マタイ教会

月二回吉野司祭により聖餐の恵みを受け他の主日はみ言葉の礼拝が守られます。先週は四人だけで守られました。

礼拝は五分前に鐘が鳴らされ心を静め一〇時三〇分礼拝が始まります。少ない人数です

がこの時間、全道の教会が礼拝していることを思えば淋しくありません。後期高齢者が多く家や病院で静養されている方、また礼拝堂が二階なので対策が必要になると思います。白藤姉の亡夫の遺品の中から衣類を名古屋笹島キリスト教連絡会に送りました。

▽岩見沢聖十字教会

七月一五日、ご高齢と健康上の理由で長く礼拝に出席されなかつた笠井咲子姉、邦夫兄宅にて家庭聖餐式を行う。咲子姉の九十路の日々にこれからもみ守りがありますように。

一七日畠山秀明兄市立病院に入院手術。経過良好にて術後一週間で退院。試練の時にも神共に在り。二〇日道央婦人会に一名出席。来春よりワーカーとしてタンザニアに派遣予定の雨宮春子姉の証しとも云える講演に深く感銘を受ける。七日年長組さんが市民行事に協力出演。見事な本番に園長さんと思わず感激の涙。

▽網走聖ペテロ教会

七月一五日の聖日礼拝は混声合唱団「モウ・マン・タイ」

の方々二〇数名が参加して下さり会堂もいっぱいになりました。

本日の礼拝は故山本弘さんを偲ぶ会として追悼献曲「アヴェヴェルコルプス」など三曲を合唱団に献歌していただきました。すばらしい歌声が会堂いっぱい響き御国の山本弘さんの喜ぶ御顔を感じました。合唱団は山本弘さんの長男泰史さんが所属しており、旅行の途中に寄って奉仕して下さいました。奉仕の感謝をしますとともに旅行の無事と合唱団の今後の活躍をお祈りします。

▽函館聖ヨハネ教会

六月三〇日ロイス岡野きく子姉九八歳ご逝去、魂の冥福を祈る。月初めの主日、子どもも礼拝も定着、高齢者に好評の様子。七〜八日道南分区分婦人集会は今金で、留守組はみ言葉の礼拝を守る。二一日ベタニアのマリア米田若子姉納骨式。二八日、日曜学校夏のお楽しみ会。公会堂下の八〇米巨大ウォーターズライダーに挑戦、中村校長手作りのピザ昼食、長く楽しい一日。

遺愛学院生の礼拝参加に賑わう。鉄骨アント包装の聖堂は、破碎・研磨・葦かえの活気ある調子の連日。元気を貰います。

▽北見聖ヤコブ教会

訪問はイエス様をお運びしているロバの歩みみたいだなと日々感じています。二九日(日)は「ヤコブ日礼拝」で使徒聖ヤコブを覚えることを通して主に心を向けました。気温が三五・七度となりますとヘロヘロ状態ですが、主は疲れることの無い方であることを信じて歩んでいます。礼拝も体調の崩れる方が出ないよう心を砕きながら進められています。司祭はいつものように、網走刑務所・北見牧師会・YMCA等へ行つていきます。「これでもか!」と言わんばかりに草は伸びています。

▽苫小牧聖ルカ教会

幼稚園の新しい園庭に大型遊具が設置され、子どもたちは大喜びです。五日、雨の中、ジャム作りのためのハスカップ狩りに行きました。一五日は教会大掃

除とハスカップジャム作り。二組に分かれて汗を流しました。礼拝堂二階の部屋がすっきりと整理されました。ハスカップジャムとマーマレードジャム、好評販売中です。礼拝後には、冊子に編集し配布された教会問答を用いての学びが続いています。幼稚園は二一日、子どもも聖歌隊スマイル結成礼拝。元々な歌声が礼拝堂に響きました。

▽深川聖三一教会

七月一日教区主教様の巡回日、この日宣教二〇〇年記念の礼拝をささげ盛大な祝会。九日保育園職員会議、主任より地震対応の避難訓練の指導がありました。一四〜一五日海の教会、留萌キリスト教会を会場として保育園児、卒園児のお泊り保育。二二日留萌キリスト教会、宣教記念日を祝うため教会を挙げて参加、バザーに出店す。須網農園の野菜を完売、高値のおり喜ばれる。二四日施設研修会に園長、チャプレン、主任西村聡美さん、保育士岸本倫子さん出席。二九日管理司祭広谷和

文牧師礼拝司式、説教の奉仕をいただく、一同感謝。

▽聖マーガレット教会

教会回りの花壇が婦人会のお仕事会による草刈りで綺麗になりました。伊藤嘉子姉の花壇献金による花々が咲き誇っています。道央分区分人の集いに向けて一八日パウンドケーキ作り、二〇日の集会には八名が出席し、雨宮春子さんのお話に耳を傾けました。二九日第五週の主日は男子の食事当番。メニューは焼きそば、石塚顕治兄、落合陵兄が前日から準備、暑い中、野外での調理。具材に秘密があるとか、絶品でした。この時期、北星学園の教会礼拝の勧めによる若い生徒さん達が出席し礼拝に華を添えて下さいます。

▽今金インマヌエル教会

道南婦人分区分会及び道南・弘前昇天教会合同礼拝と初めてのジャズコンサート開催にあたって:

二〇一八年七月七日〜八日(土・日)に婦人分区分会と道南・弘前昇天教会合同礼拝が今金インマヌエル教会に

て参加者三九名で行われました。

今金らしい楽しめる内容にしたいと思い、罰ゲーム有りの室内カーリングやお座敷ゲームで大いに盛り上がり、藤井司祭よりの講話「渡辺淳一著にみる萩野吟子の生涯と聖公会」もとても勉強になりました。

そして、皆さんに「とても楽しかった」と喜んで貰えた事、二日目の信施を階段改修工事へ使わせて頂いた事に感謝致します。

又、翌週の七月二五日(日)にインマヌエル教会初めてのジャズコンサートを開催し、四一名の観覧者とても豊かな時間を過ごす事が出来ました。

思いの外小さなお子さん連れのご家族も多く、最後まで聴いて頂けるか心配でしたが、あらず思議!演奏が始まると笑顔になるのです。

宣教活動の一環とドキドキしながら当日を迎えました。その親子の笑顔で全てが報われた思いでいっぱいになりました。